

世界が進むチカラになる。



中国景気概況(2024年8月)

2024年8月2日

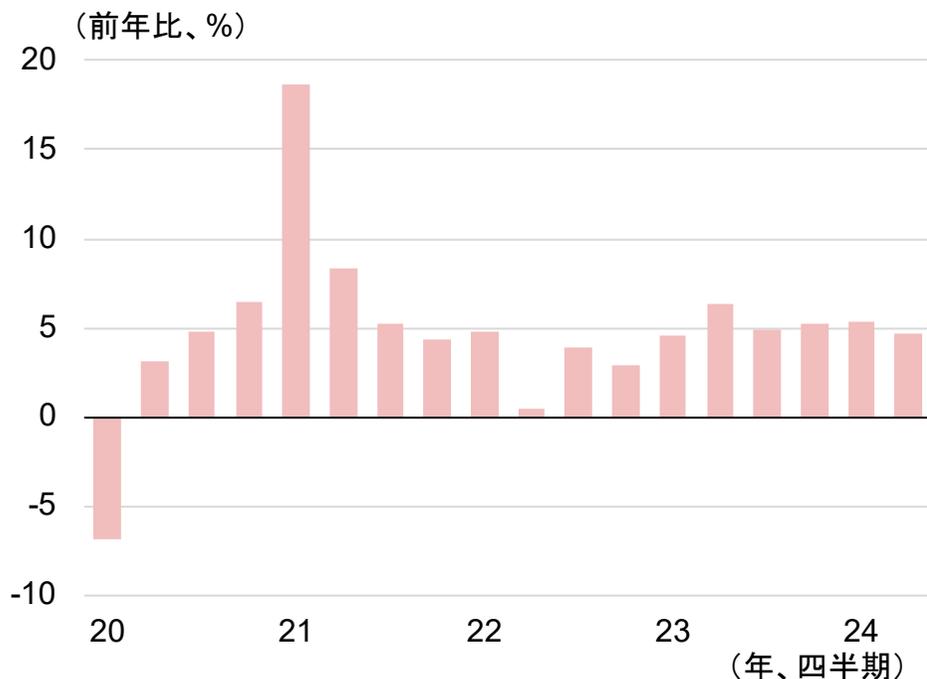
調査部 副主任研究員 丸山健太

景気は弱い動き

中国景気は弱い動きが続いている。2024年4～6月期の実質GDP成長率は前年比+4.7%と前期から増加幅が縮小した（6頁参照）。業種別では、不動産業の前年割れが続くなど、第三次産業の増加寄与の低下が大きかった。

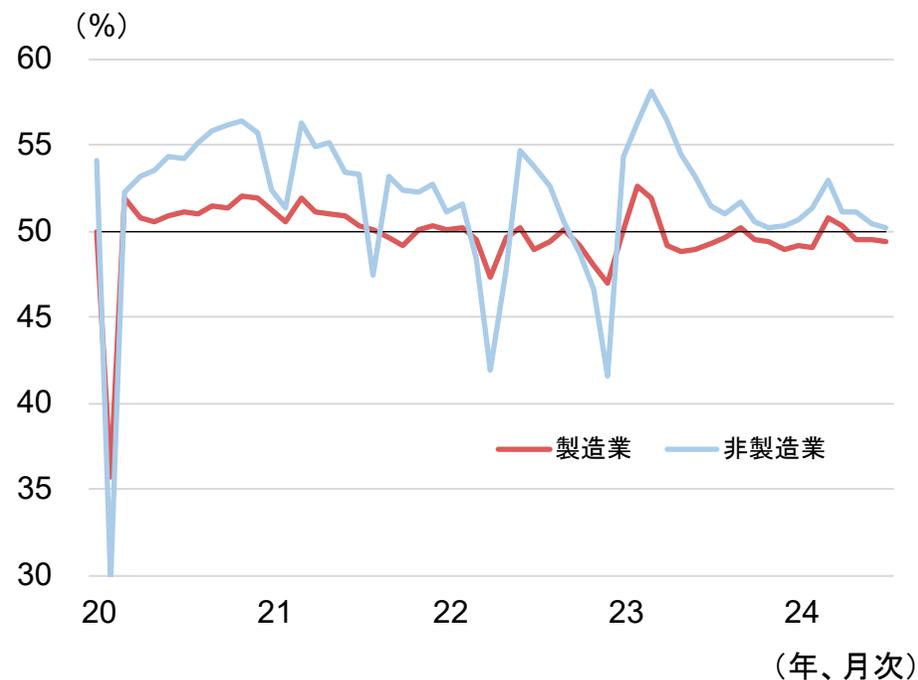
7月のPMIは製造業、非製造業とも低下した。また、調査項目の一つで将来の期待を示す予測指数は、両業種ともゼロコロナ政策が撤廃された2023年1月以降での最低を記録し、景気の先行き懸念は強い。

実質GDP(四半期)



(出所) 国家統計局

PMI



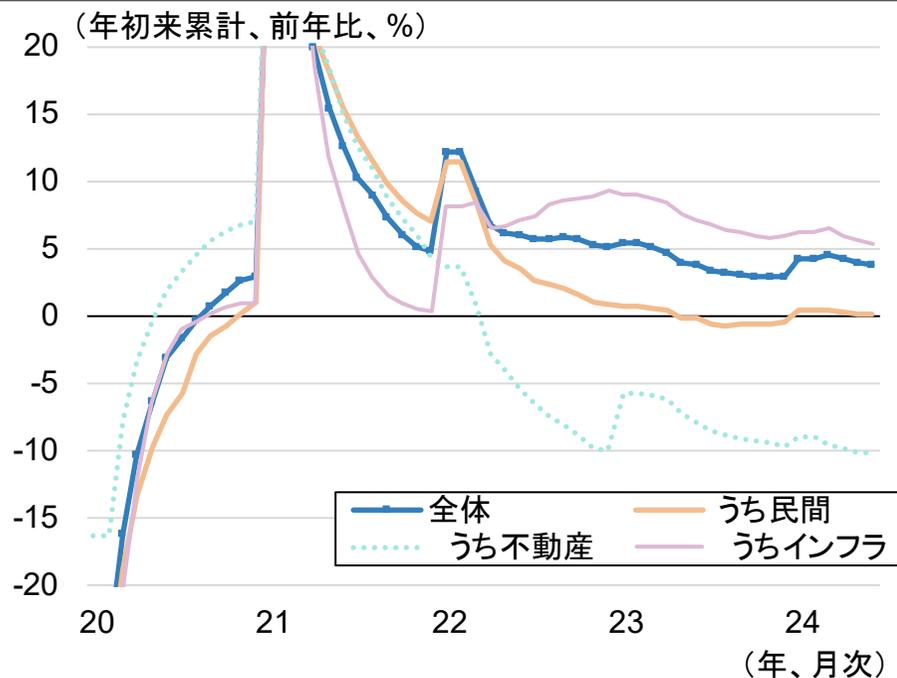
(出所) 国家統計局

固定資産投資、生産ともに増加幅縮小

6月の固定資産投資(年初来累計値)は、前年比+3.9%と増加幅が縮小した。内訳をみると、不動産開発投資で大幅な減少が続ки、インフラ投資も伸びが縮小した。4~6月の季節調整済み前期比(年率換算)は+2.6%と低い伸びだった。

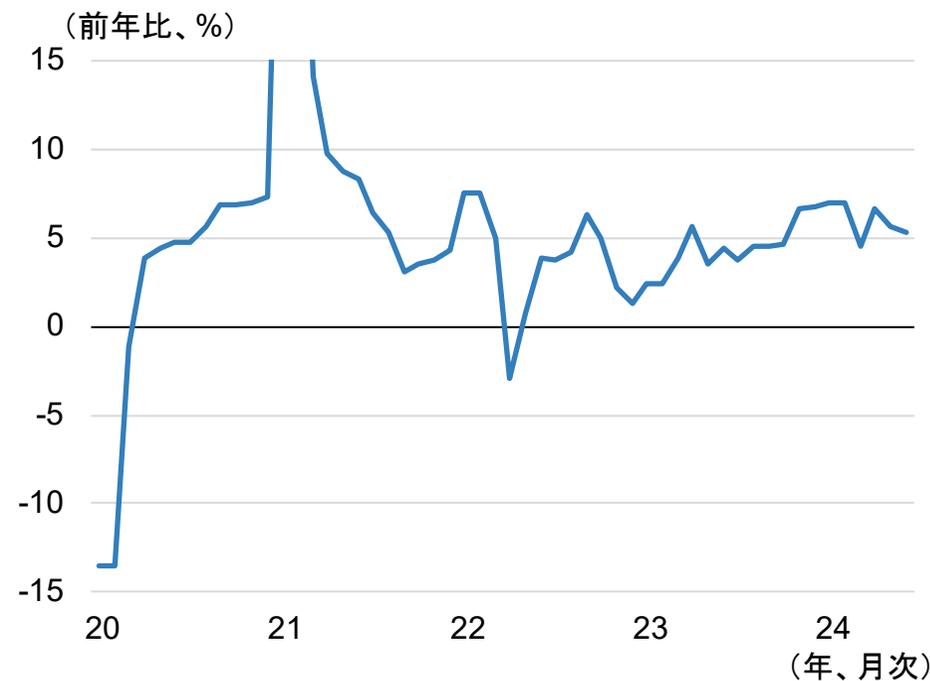
6月の工業生産は、前年比+5.3%と増加幅が縮小した。もっとも、消費など内需の弱さにもかかわらず、新エネルギー車やリチウムイオン電池などは大幅増加が続いており、欧米からの批判を浴びる過剰生産問題は解消の兆しが見えない。

固定資産投資



(注) 2020年1~2月、21年1~3月はグラフの見やすさのためカット
(出所) 国家統計局

工業生産



(注) 2021年1~2月は前年比+35.1%
(出所) 国家統計局

消費は弱い動き、物価は低迷が続く

6月の小売売上高(名目)は前年比+2.0%と増加幅が縮小し、ゼロコロナ政策撤廃前の2022年12月以来の低い伸びとなった。また、季節調整済み前期比は11ヶ月ぶりにマイナスを記録した。内訳をみると、耐久財である自動車類や家電類、住宅関連のリフォーム材料類、ぜいたく品の化粧品類や金銀宝飾類など、多くの品目で前年割れとなった。

6月の消費者物価は前年比+0.2%と伸びが縮小した。自動車など耐久財価格の下落が、引き続き物価を押し下げた。

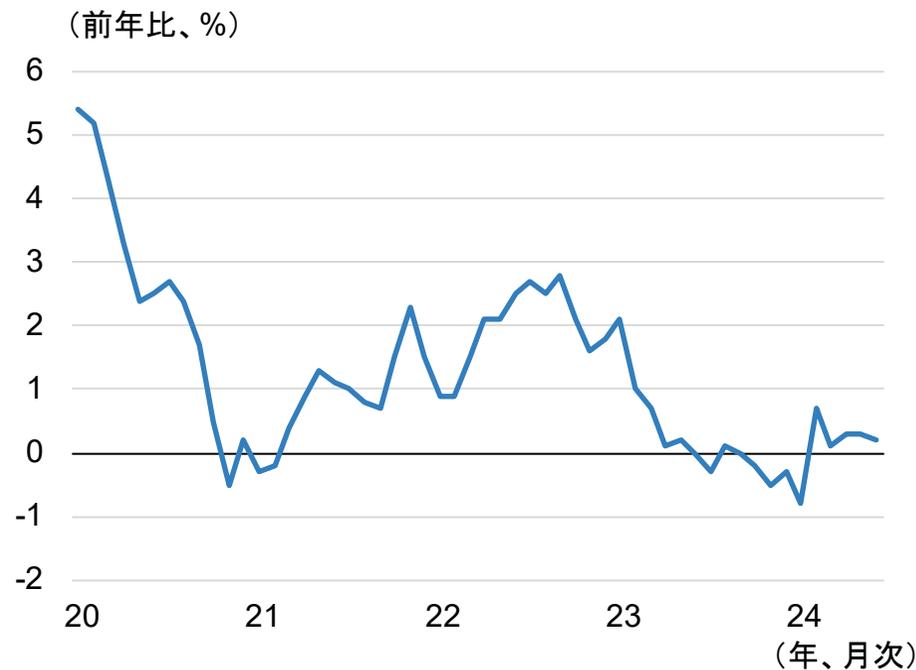
小売売上高(名目)



(注) 2021年1~2月は前年比+34.3%、3月は同+33.0%

(出所) 国家統計局

消費者物価指数

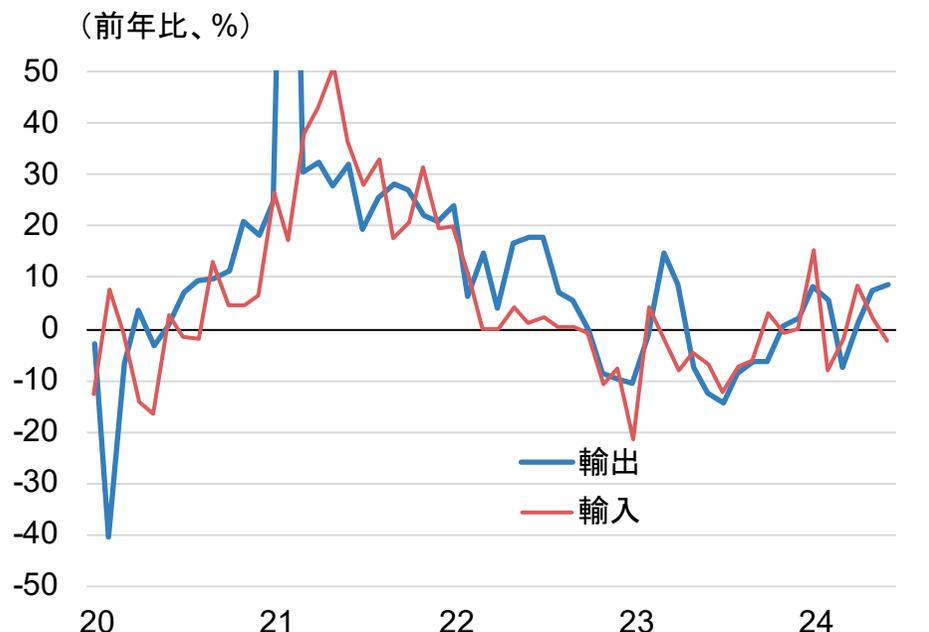


(出所) 国家統計局

輸出は増加、輸入は減少

6月の輸出は前年比+8.6%は増加が続いた一方、輸入は同一-2.3%と3ヶ月ぶりに減少した。貿易黒字は990億ドルと、前年同月(706億ドル)から拡大した。輸出は、主要相手国・地域向けで軒並み増加し、中でもASEAN向けの増加が大きかった。財別では、電子部品の増加寄与が大きかった。輸入は、前月まで大きく増加していた集積回路が6ヶ月ぶりに前年割れに転じ、全体を押し下げた。貿易収支は、輸出が大きく増加した対ASEAN、対米国の黒字拡大が大きかった。

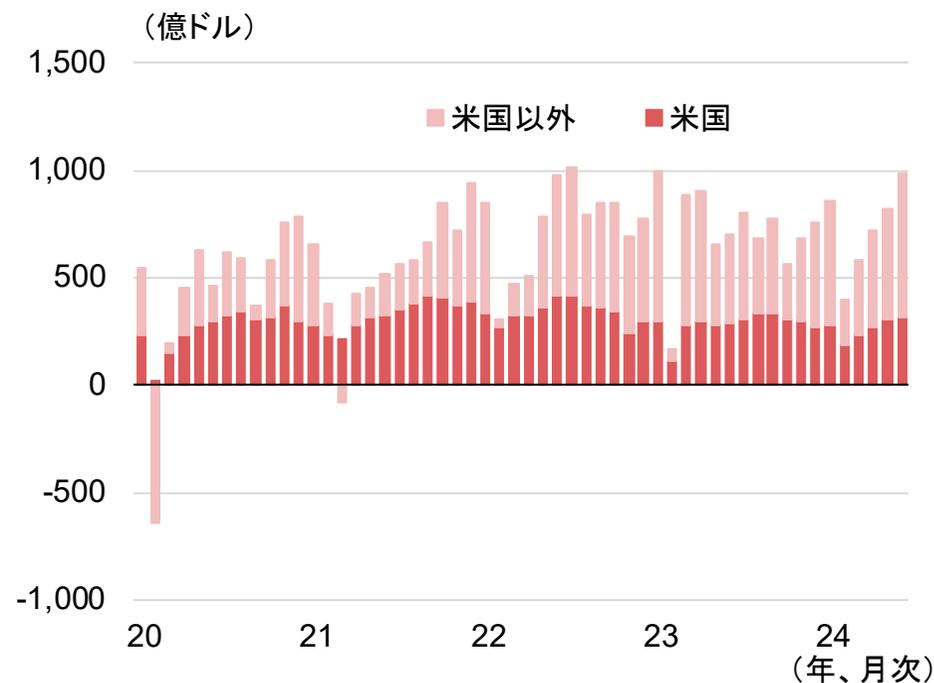
財輸出入



(注) 2021年2月の輸出は前年比+154.9%、21年5月の輸入は同+51.1%

(出所) 海関総署

貿易収支



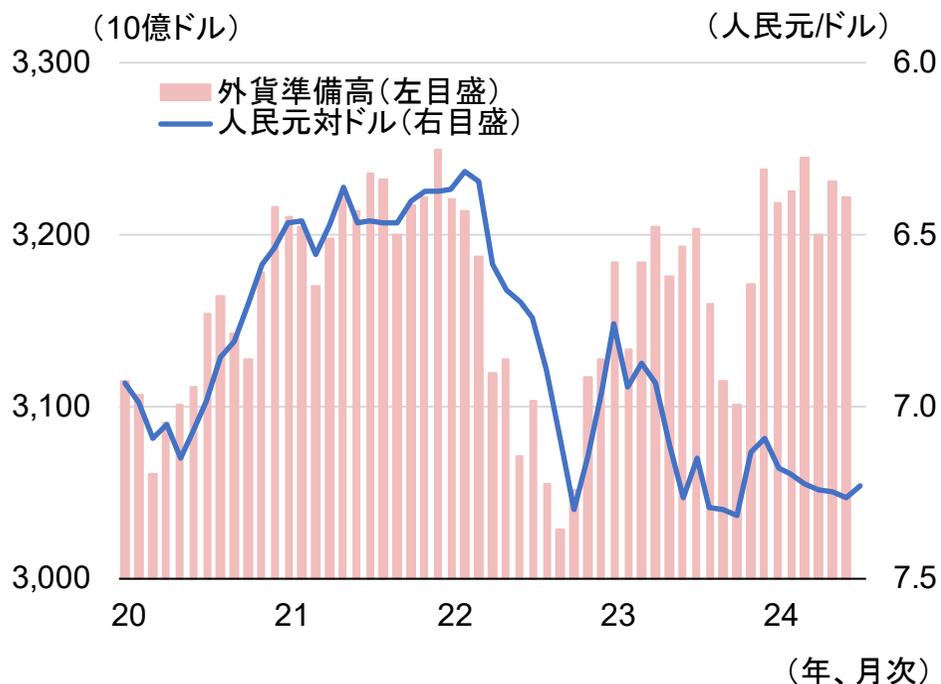
(出所) 海関総署

為替は元高、株価は下落

人民元の対ドルレート(7月末)は1ドル=7.23元だった。米国の利下げ観測の高まりなどを受け、ドル安・人民元高が進んだ。なお、中国の金融緩和の人民元相場への影響は限定的だった。6月末の外貨準備高は3兆2,224億ドルと減少した。

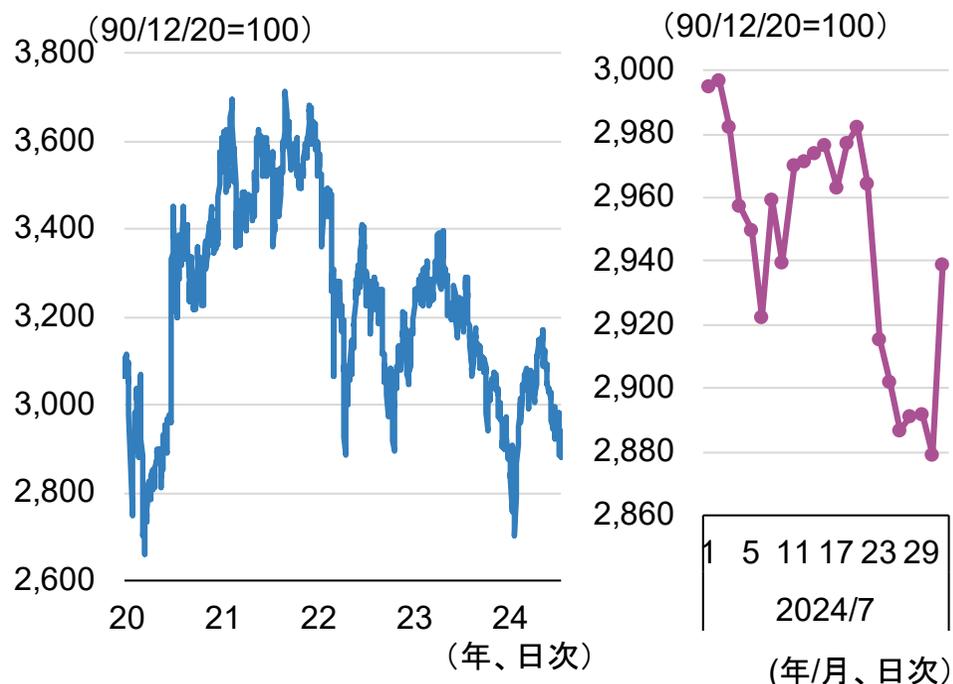
7月の上海総合株価指数は、中旬まで概ね横ばい圏で推移した後、下旬には中国景気の先行きや米中対立への懸念の高まりを背景に下落し、5ヶ月半ぶりの安値を記録した。なお、金融緩和の株価への影響はほとんど見られなかった。

外貨準備高



(出所) 中国人民銀行、中国外貨交易中心

上海総合株価指数



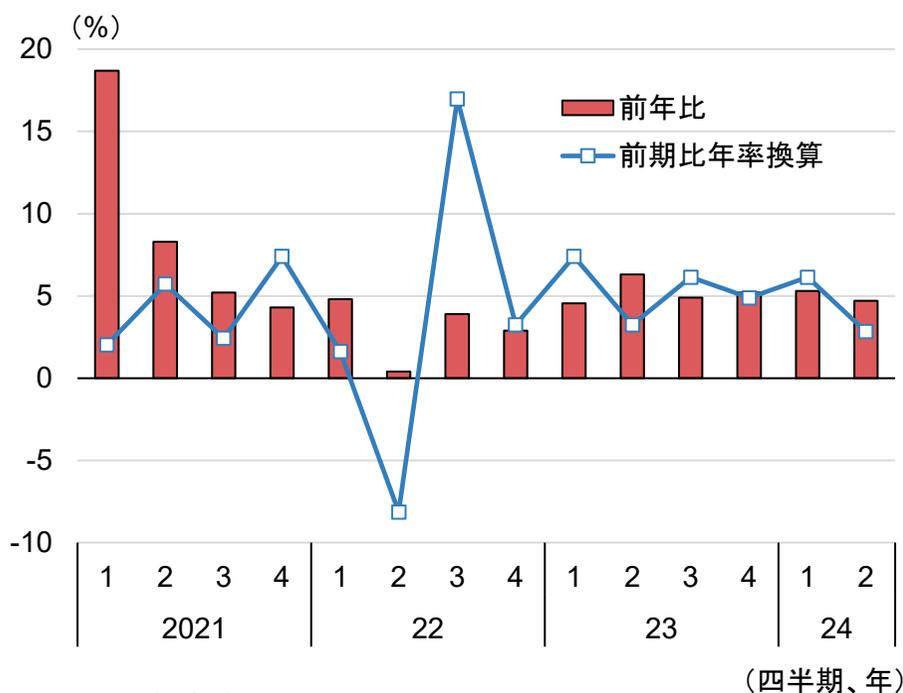
(出所) 上海証券交易所

2024年4～6月期のGDPは多くの業種で減速

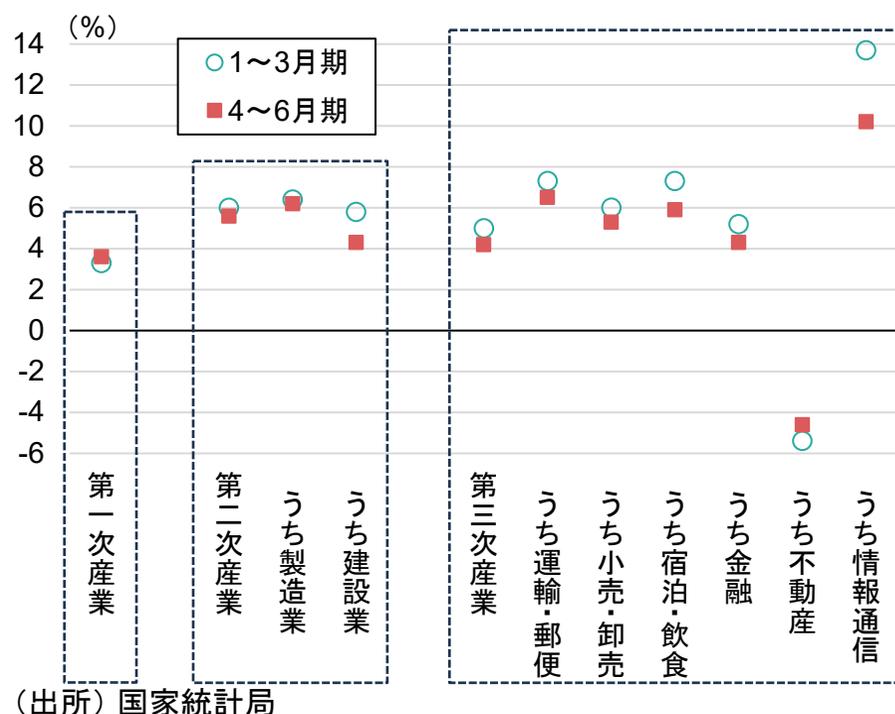
2024年4～6月期の実質GDP成長率は前年比+4.7%と前期から伸びが縮小した(左図、1頁参照)。また、季節調整済み前期比(年率換算)も+2.8%と上海ロックダウンでマイナス成長となった2022年4～6月期以来の低成長に終わった。

業種別で見ると、ほとんどの業種で前期から伸びが縮小した(右図)。また、不動産は5四半期連続で前年割れとなった。年後半も、不動産不況に終わりが見えず、個人消費も弱い中、GDPの5～6割を占める第三次産業の伸びは縮小が続き、通年の実質GDP成長率は政府目標の「5%前後」をやや下回って着地する見込みである。

実質GDP成長率



業種別GDP成長率(2024年1～3月期、4～6月期)



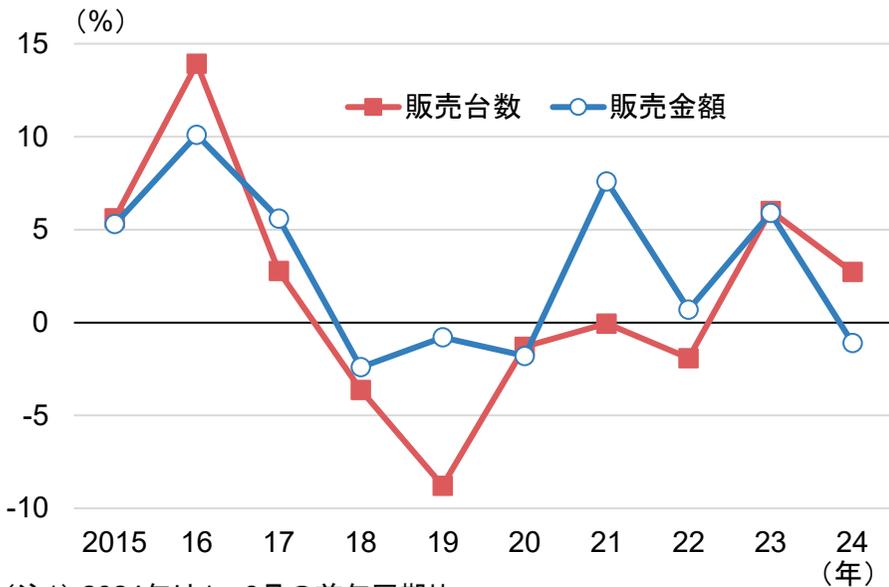
(出所) 国家統計局

自動車販売は低迷、政策支援も効果は限定的

国内自動車販売は低迷が続く。2024年上期は販売台数こそ前年から増加したものの、金額は前年割れした(左図)。月次で見ると、販売台数は5月以降、また金額は3月以降減少が続き、自動車販売の状況は悪化している。

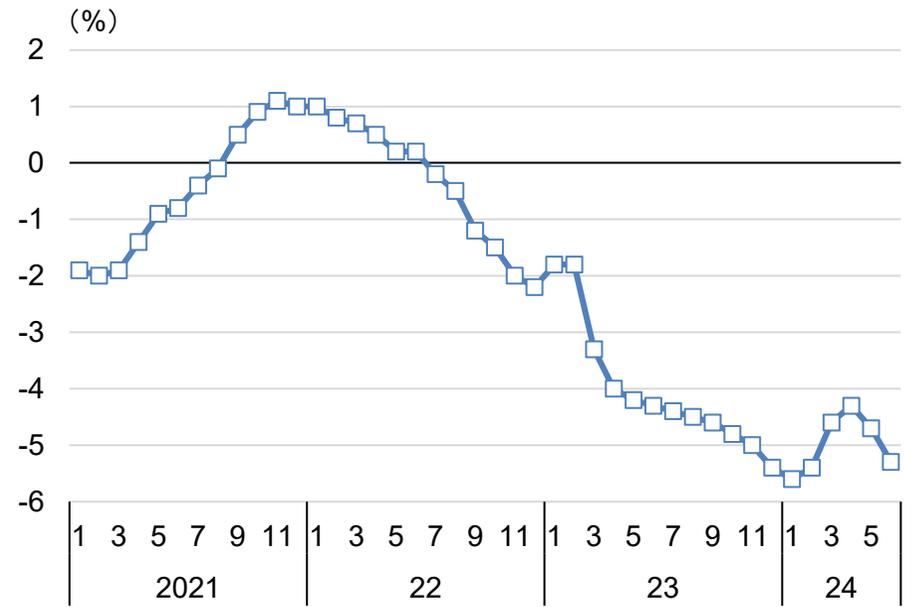
これまで、販売台数と金額は概ね連動しつつ、性能向上等により金額が台数の伸びを上回る年が多かったが、足元で販売不振から自動車価格は下落し(右図)、今年上期は金額が台数の伸びを下回った。今年3月以降、政府は自動車買い替え促進策を実施しているが、政策実施後も消費者マインドは悪化が続いており、自動車販売の回復は当面見込めない。

国内自動車販売台数／金額



(注1) 2024年は1~6月の前年同期比
 (注2) 「販売台数」は輸出を除いた数字
 (注3) 「販売金額」は一定規模以上の企業の小売売上高
 (出所) 中国自動車工業協会、海関総署、国家統計局

「自動車・バイク等」の価格(前年比)



(注) 消費者物価指数の構成項目
 (出所) 国家統計局

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)調査部 丸山健太

TEL:03-6733-1630 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー